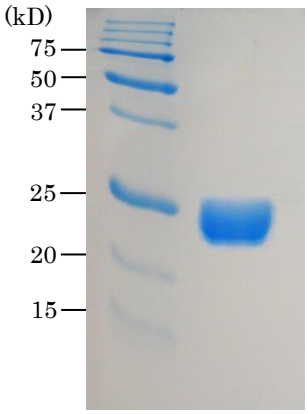
コレラ毒素 A サブユニット

商品コード	01-521
容量	50 µg
保存	-80°C 凍結融解を避ける
製品説明	本品は、*Vibrio cholerae* 569B 株から Finkelstein (2)及び Iiima & Honda (3)らの方法で高度に精製したコレラ毒素を、尿素存在下のゲルろ過クロマトグラフィーと 2 回のイオン交換クロマトグラフィーとを行うことで A サブユニットだけを精製した。
濃度	1.0 mg/ml
バッファー	20 mM Tris-HCl pH 8.2, 0.2M NaCl, 10% glycerol
純度	SDS-PAGE 解析で B サブユニットの混入は検出レベル以下であった。 コレラ毒素で CHO 細胞の形状変化の増加が検出できる量の 100 倍量の本製品で処理しても形状変化の増加は起こらなかった。 コレラ毒素 A サブユニット(27.2kDa) 
アプリケーション	酵素活性（ADP リボシルトランスフェラーゼ活性）
背景	コレラ毒素はコレラエンテロトキシンとも呼ばれ、激しい下痢を伴う食中毒を起こす通性嫌気性のグラム陰性菌 *Vibrio cholerae* が産生する。コレラ毒素は分子量 27.2 kD の A サブユニット 1 分子と 11.6 kD の B サブユニット 5 分子からなる複合体である。コレラ毒素は B サブユニットを介して、標的細胞表面にあるガングリオシド GM1 に結合し、細胞内に取り込まれる。細胞内で分離、プロセスされた A1 が G タンパク質の一つである促進性 G タンパク質(Gs)のαサブユニットを ADP リボシル化し、アデニル酸シクラーゼの持続的な活性化を引き起す(1)。
Data Link	UniProtKB: P01555
参考文献	1. Hirst TR & D'Souza in The *Comprehensive Sourcebook of Bacterial Protein Toxins.* 3rd ed. p 270-290, Academic Press (2006) 2. Finkelstein RA and LoSpalluto JJ "Pathogenesis of experimental cholera. Preparation and isolation of choleragen and choleragenoid." *J Exp Med* **130**: 185-202 (1969) PMID: 4978880 3. Iijima Y and Honda T "Enterotoxin of Vibrio Cholerae." In *Recent Advances in Marine Biotechnology,* Fingerman M and Nagabhushanam R edt. Science Pub. Inc.**7**: 41（2002）
Related Products	01-511 Cholera Toxin　01-525 Cholera Toxin B-subunit

※本製品は研究用です。ヒトを対象にした実験，診断および軍事目的に使用することはできません。

BioAcademia,Inc. Tel. 81-6-6877-2335　Fax. 81-6-6877-2336 info@bioacademia.co.jp　https://www.bioacademia.co.jp/en/